



交野小学校、長宝寺小学校の閉校にあたり



令和4年3月15日に長宝寺小学校の閉校式が、3月17日に交野小学校の閉校式が行われました。感染拡大防止の配慮をしていただきながら、全校児童がかかわることのできる心のこもった閉校式をしていただいた両校の校長先生はじめ教職員の皆さんや児童の皆さん、理解して見守っていただいたPTAはじめ保護者の皆さん、心から感謝申し上げます。

6年生は、新型コロナウイルス感染症の影響で、5年生で楽しみにしていた宿泊学習が実施できないなど、がまんの大きかった学年かもしれません。それだけに、長宝寺小学校でのメッセージや映像、交野小学校での感謝のことばや歌は心に響きました。最高学年としてふさわしい姿でした。



交野小学校は136年の歴史に、長宝寺小学校は47年の歴史に幕を閉じます。両校とも地域に愛されそれぞれ特徴のある学校ですが、もとをたどれば明治18年（1885年）逢合橋の東に生まれた交南小学校から始まります。交南小から発展した交野小学校から郡津小学校が分離し、昭和50年（1975年）には交野小学校と郡津小学校から分離して長宝寺小学校が誕生しました。4月に開校する交野みらい小学校は、言ってみれば、交野小学校と長宝寺小学校、しばらく別々に暮らしていたきょうだいがまた一緒に暮らすようになった、とも捉えることができます。

交野小学校の高嵯校長先生は、閉校はつまり新しい学校の開校、スタートであるとおっしゃられ、長宝寺小学校の徳長校長先生は人間関係が広がりさまざまな経験ができるとおっしゃられています。校長先生の思いを受け、閉校式でも市長から力強い言葉がありましたが、新たな交野みらい小学校、（仮称）交野みらい学園は、名前のとおり未来を生きる今の子どもたちにとってふさわしい学校になる、学校にするという強い気持ちが湧いてきます。





校長先生から市長へ、校旗返納

私事を述べさせていただきます。私は交野小学校の卒業生です。兄姉もそうです。両親や祖父母は「交南」のころの卒業生です。父は長宝寺小学校開校時に教育長をしていました。当時、保護者や地域の方から大きな不安の声がある中、長宝寺小学校の開校にこぎつけたと聞きます。私は、そんな2つの学校を閉校にする教育長です。親不孝、きょうだい身内への不義理もはなはだしいです。卒業生や保護者からも閉校を惜しむ声が多くあります。

ただ、未来を生きるのは私ではありません。交野の、日本の未来を担うのは私たちの世代ではありません。今の社会情勢や国際情勢を3年前に誰が予想できたでしょう。自然災害は人の力で防ぐにも限界があるでしょう。でも、社会情勢や国際情勢は人の力でいい方向に持って行けるはずで、子どもたちには、そんな世界を作ってほしいです。ムリがまかり通る社会ごり押しが通る世界ではない未来をつくる、その第一歩が交野みらい小学校での学校生活であってほしいですし、そのための閉校であると心から願い信じています。

令和4年3月17日(木)

交野市教育委員会教育長 北田千秋